

人工知能美学芸術宣言

人間が人工知能を使って創る芸術のことではない。

人工知能が自ら行う美学と芸術のことである。

西暦2016年現在、人工知能を用いた技術や芸術が地上を席捲している。人工知能が有する認識能力、判断能力、創造能力の一部等は、常人の脳が有するそれらをすでに凌駕している。人間は人工知能を使って認識し、判断し、芸術作品の創作を行っている。

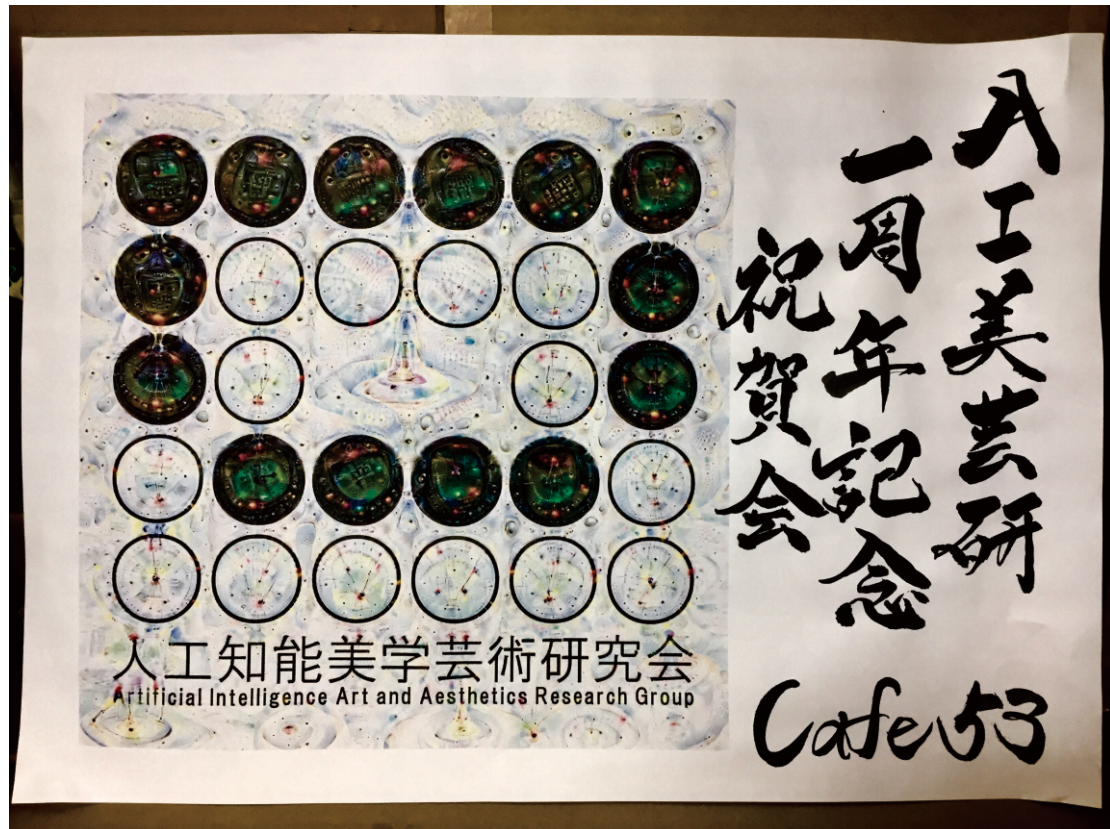
一方、人工知能は自前の美的価値判断能力すなわち美学を、現時点では持ち得ていない。それゆえ自前の芸術も、現時点では生み出していない。その理由は端的に、自律性を兼ね備えた汎用人工知能が実現できていないからであり、これについては後述する。ただし、仮に汎用人工知能が実現できたとしても、それが自前の美学を持ち芸術を生むとは限らない。また、仮に人工知能が自前の美学を持ち芸術を生んだとしても、人間の知能がそれらを美学であり芸術であると認識するとは限らない。

このように諸問題が横たわっているが、それでもわれわれは、将来の人工知能が自ら行う可能性のある美学と芸術に正面から向き合うことを宣する。それゆえわれわれは、人間の脳活動の所産として従来行われてきた美学と芸術を、批判的に再検証することを辞さない。美学や芸術は、ヒトという生物種に固有の属性なのか、それとも脳活動またはそれに類似の知能一般に共通する属性なのか。後者の場合、人工知能が自ら行う美学や芸術は、人間が行うそれらを凌駕する可能性は有るのか。人工知能美学者像や人工知能芸術家像は、天才型なのか秀才型なのか、アウトサイダー型なのか美術史家型なのか。

自律性を兼ね備えた汎用人工知能の実現は、理論的に不可能であるとする説もあるが、近年注目されている深層学習等の方法が風穴を開けつつあると見る向きもある。これを採り入れたアルファ碁という囲碁特化型人工知能は、専門家にも意図がすぐには読めない手を連発して世界トップ棋士に圧勝した。自律的な学習により創造性と直観を深化させた人工知能の闘いぶり、人智の及ばぬ碁の神髄を教えてくれるかのような感じがあったと言う人もいる。われわれはこれを、人工知能ならではの美の萌芽に至るヒントと認めたい。なぜなら碁こそは、美しさとの関連で語られてきた知的文化だからだ。そして人工知能を作ったのは人間なので、人工知能が勝利しても人間の勝利であるという安易な人間賛美に与しない。また、人工知能は社会を豊かにする技術であるとする産官学の連携指針が、人間中心主義に対する疑義を扱えない現状を看過しない。人工知能開発の目的は人工知能が人間の脳に近づくことだとイメージされる場合もあるが、逆向きにはそれは、人間の脳が人工知能と区別できなくなることである。時や場所、状況に応じて適切に受け答えをする鳥の鸚鵡がいるとするならば、その鸚鵡はわれわれ自身であることを知るべきだ。

本宣言文中の美学や芸術の語は、近代以降に定立されたそれらの概念のみならず、宗教や呪術と不分明な原初のそれらも射程に含める。同時に、美の価値の定立が国家権力や軍事と不可分であることも、われわれは知っている。しかしそれでも、人工知能が自ら行う美学と芸術に、人間が行ってきたそれらが連続性を保ち得る保証は無い。

2016年4月25日 中ザフヒデキ 起草



AI 美芸研一周年記念祝賀会

人工知能美学芸術研究会（AI美芸研）は、「人工知能美学芸術宣言」（中ザワヒデキ起草）を布石の一つとして、29名の発起人により2016年5月1日に発足しました。SNSでの場の開設と、公開の研究会のほぼ隔月開催を主な活動内容としております。会員制とはしておりませんのでどなたでもご参加できます。

今回は、ICC主催のシンポジウム「人工知能とアート 来るべきもの」に引き続き、夜景の美しい同ビル最上階カフェにて、一周年記念祝賀会を行います。立食パーティーです。初めての方も歓迎です。スタッフ一同、お待ちしております。

開催日時：2017年5月13日（土）午後6時30分-8時30分（開場：午後6時15分）

会場：Cafe53（東京オペラシティタワー53階） ※ICCからは2Fに降りてから最上階行EVにお乗り換えください

定員：約70名（予約不要。先着順）

会費：4,000円

主催：人工知能美学芸術研究会（AI美芸研）

※SBArtプロジェクト 畝見達夫

※次回の第7回AI美芸研は7月2日（日）、美学校にて開催予定です。